

## 感染症定期報告の報告状況

感染症定期報告の報告状況（医療機器）（2005/12/1～2006/3/31）

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/12/6	58045	泉工医科工業株式会社	模型人工肺	ペパリン	豚小腸粘膜	イタリア	添加物	有	無	無	細菌感染	OIE Disease Information Vol. 18-No. 26 (1 July 2005)	Nandaime地域の養豚場にて再び豚コレラが発生した。コレラの疑いがある豚385頭の内105頭が感染し、75頭が死んだ。DGPSA中央研究所にてELISA(酵素免疫測定法)及び、PCR(ポリメラーゼ連鎖反応)を実施した結果、いずれも陽性反応であった。PAV-250ワクチンを接種中である。
											口蹄疫	ProMed Mail 6 July 2005	ヴェトナム南端のCa Mau省で、270頭近い豚が口蹄疫により死亡した疑いがあると、7月5日に地元紙が報じた。2005年6月に死亡した268頭の豚から採取した19の検体からは、口蹄疫に感染していた事が示されたとQuan Doi Nhan Dan紙が報じた。過去数ヶ月間に同地域内において、1840頭近くの豚が典型的な病気に感染し、口蹄疫の疑いも持たれている。地元の獣医たちは、52000頭以上もの豚にワクチンを接種したが、効果的な治療には至っていない。
											感染	OIE Disease Information Vol. 18-No. 2 (8 July 2005)	Hernando Siles県Monteagudo地域のChuncusla村の飼育農家で、オーエスキー病が4月23日に再発生した。その後5月5日にその事実が確認された。オーエスキー病の疑いがある豚4,997頭の内、213頭が死んだ。僅か15日以内に158頭の子豚が死んだ。農家の獣医は、19の血清サンプルを研究所にてELISA(酵素免疫測定法)で調べた結果、9つのサンプルで陽性反応が確認された。7日後、発生した地域10箇所の農場から、159の血清サンプルが集められた。その結果、計4箇所の農家で28の血清サンプルが陽性反応を示した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											感染	OIE Disease Information Vol.18-No.27(8 July 2005)	オーストラリア国内2箇所(サウスオーストラリア、ニューサウスウェールズ)の豚小屋で発生したとされる、離乳後多臓器性発育不良症候群であるか否かの調査は、州政府の獣医によって現在進行中である。この2つの群れは、移動しなくてはならない。1箇所では、黄疸の症状が見られた子豚のサンプル検査の組織病理学的な所見より、陽性の疑いが発生した。別の箇所では、組織病理学的な変化が疑われる死亡率が低く、十分に餌を与えられているのにも関わらず育たない子豚のサンプルが検査の対象となった。検査の結果、双方に関係は無い事が公表された。
											結核	ProMed mail 13 July 2005	Bodmin近郊の養豚場で飼育されていた豚2頭と子豚数頭が屠殺場に送られた。その後の検査で、牛結核に罹患していた事をCornish畜殺場の所有者が明らかにしたとBBC Newsが伝えた。獣医学局では、牛結核は豚での届出疾患では無いため、これ以前の牛結核症例の記録は無い。BBC西部環境通信員によれば、豚の牛結核症例は人間への健康被害の危険性は無く、今回は非常に稀なケースであると伝えている。
											感染	OIE Disease Information Vol.18-No.28(15 July 2005)	1918年以来、Western Cape県Worcesterにある2つの養豚場で再び豚コレラが南アフリカで発生した。6500頭の内、対象となった1110頭全てが死んだ。PretoriaにあるOnderstepoort動物研究所にてELISA(酵素免疫測定法)を実施した結果、陽性反応が確認された。サンプルはイギリスのWeybridgeとドイツのHanoverにあるOIE関連の研究所に送られた。
											感染	OIE Disease Information Vol.18-No.32(12 August 2005)	Ogun州のAbeokuta地域の3箇所の養豚場にて、罹患した疑いのある豚229頭の内、65頭が死んだ。Ibadan大学の獣医訓練病院で、予備検査が行われた。Vomにある国立中央獣医研究所では、最新の研究実験が行われている最中である。アフリカ豚コレラの根絶、隔離を行った。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ブタ連鎖球菌	OIE Disease Information Vol.18-No.31(5 August 2005)	四川省で豚連鎖球菌に感染した豚319頭が死亡、6736頭が焼却処分された。複数の研究所にて細菌分離とバクテリアの培養、顕微鏡検査、蛍光抗体試験、PCR(ポリメラーゼ連鎖反応)を実施した結果、いずれも陽性反応を示した。DNAシーケンス法の結果では、病原体はヌクレオチド相同が98%の連鎖球菌Bであった。その後、人への感染が広がり、215名の感染者が報告された。146人は退院したが、39名が死亡した。中国衛生省と農業省は、死んだ豚を処理・加工した際に人へ感染したと結論づけた。
											鳥インフルエンザ	Promed mail 24 July 2005	インドネシア当局は、同月に国内で初めて鳥インフルエンザによる犠牲者となった同一家族3人が住む首都ジャカルタより、30KM程離れたTangerangに近い村で、鳥インフルエンザに感染した豚200頭を7月24日に焼却処分する予定である。犠牲者と養豚場の豚が接触したかの証拠は無く、そして実験室のテスト結果では、この菌株は、新たに人に感染するような突然変異とはならないと報じている。今年の4月初め、豚が国内で最初にH5N1型株鳥インフルエンザに感染していた事を示す証拠として、RT-PCR(RNA逆転写遺伝子増殖法)で豚の血清を調べていた。
											炭疽	Promed mail 1 September 2005 5 September 2005	Rostov地域Zavetninskiy地区にある獣医学研究所の代表者が豚の死骸から炭疽菌を検出したと報告した。この検査結果は、Rostov-on-Donの地域研究所によって確認された。この豚は、炭疽菌に対するワクチンが未接種である事が判明した。豚は焼却処分された。感染した農場では検査を受け、飼育されている動物はワクチンを接種された。検査は2週間続けられる予定である。3回目を実施された生物学的検査、顕微鏡による検査と細菌学的な検査による診断の結果、公式に炭疽菌である事が確認された。
2005/12/9	58046	川澄化学工業株式会社	ヘパリン使用人工心肺用回路システム	ヘパリン	豚小腸粘膜	中国	添加物	無	無	無			
2005/12/16	58047	フォルテグロウメディカル株式会社	ヘパリン使用人工心肺用回路システム	ヘパリン	豚小腸粘膜	イタリア	有効成分	無	無	無			
2006/1/18	58048	日本シャーウッド株式会社	滅菌済み中心静脈注射用チューブ及びカテーテル	ヘパリン	ブタ腸粘膜	ブラジル	添加物	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2006/1/25	58049	エドワーズライフサイエンス株式会社	ウマ心膜パッチ	ウマ心のう膜	ウマ心のう膜	米国	有効成分	有	無	無	寄生虫感染	米国サウスカロライナ州保健環境管理当局ホームページ <a href="http://www.scdh.ec.gov/news/releases/2005/200510/nr10EEE1stHCase05.htm">http://www.scdh.ec.gov/news/releases/2005/200510/nr10EEE1stHCase05.htm</a>	東部ウマ脳炎 (EEE) にMarlboro郡在住の老人が感染し、2005年のサウスカロライナ州の東部ウマ脳炎ヒト患者第1例目となった。2005年はサウスカロライナ州でEEE感染が確認された動物と蚊の数が増加している。
											寄生虫感染	OIE Disease Information Vol. 18-No. 33 (19 August 2005)	米国コロラド州、モンタナ州、ニューメキシコ州、ユタ州、ワイオミング州でのウマの水疱性口内炎のアウトブレイク報告。
2006/1/25	58050	泉工医科工業株式会社	人工心肺用血液回路	ペパリン	豚小腸粘膜	中国	添加物	無	無	無			
2006/1/25	58051	泉工医科工業株式会社	膜型人工肺	ペパリン	豚小腸粘膜	米国	添加物	無	無	無			
2006/1/25	58052	泉工医科工業株式会社	人工心肺装置の付属品	ペパリン	豚小腸粘膜	米国	添加物	無	無	無			
2005/1/25	58053	泉工医科工業株式会社	人工心肺装置の付属品	ペパリン	豚小腸粘膜	米国	添加物	無	無	無			
2006/1/25	58054	泉工医科工業株式会社	膜型人工肺	ペパリン	豚小腸粘膜	中国	添加物	無	無	無			
2006/1/25	58055	泉工医科工業株式会社	ヘパリン使用人工心肺用除泡器	ペパリン	豚小腸粘膜	中国	添加物	無	無	無			
2006/2/7	58056	エイエムオー・ジャパン株式会社	ヘパリン使用後房レズ	ヘパリンナトリウム	ブタの腸	米国	有効成分	無	無	無			
2006/2/7	58057	エイエムオー・ジャパン株式会社	ヘパリン使用後房レズ	ヘパリンナトリウム	ブタの腸	米国	有効成分	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2006/2/7	58058	生化学工業株式会社	ブタ歯胚組織使用歯周組織再生用材料	エナメルマトリックスデリバティブ	幼若ブタの歯胚	スウェーデン	有効成分	有	無	無	HEV	Journal of Medical Virology 2005; 76:341-9	日本に於けるE型肝炎ウイルスの伝播とE型肝炎の重症化に関する危険因子を明らかにするため、特に発症の多い北海道において、1996年から2004年の間で確認された軽症型(n=23)と重症型(n=9)の患者32例を対象にE型肝炎の臨床的及びウイルスの特徴を検討した。重症型の9名の患者は、2名は劇症肝炎であり、7名は重症急性肝炎であると診断された。重症型は、経過中のプロトロンビン活性(PT)は40%以下であること及び/又は総ビリルビンレベルが20mg/dl以上に増加すること。少なくとも25名(全体の78%、不明者5名除く全体の93%)の患者は、十分に加熱調理していないブタレバー及び/又は腸(ホルモン)をE型肝炎の発症の1~2ヶ月間に摂取している。7人の患者は、HEV遺伝子型IIIを持っており、25人の患者は、HEV遺伝子型IVを持っていた。ALTレベルは有意に高く(p=0.0338)、プロトロンビン活性(PT)の最低値が有意に低い(p=0.0340)。E型肝炎の重症化は、基礎疾患の有無に関係している事が示唆された(56%【5/9】vs 17%【4/23】P=0.0454)。研究では、HEVの人獣共通感染症が経路として食物伝播により発生し、HEV遺伝子型と基礎疾患の存在がE型肝炎の重症化に影響する事が、北海道でのE型肝炎の発生で重要な因子となったことを示唆した。
											ブタ連鎖球菌	WHO Communicable Disease Surveillance & Response : Outbreak associated with Streptococcus suis in pigs in China 3 August 2005	中国衛生部はブタ連鎖球菌Streptococcus suis 感染のブタでの集団発生に関連して発生したヒトの感染を206例と報告。これらのヒト症例のうち、38例が死亡、18人の患者が重症としている。実際には全ての症例は、中国で最も多くブタが飼育されている四川省で発生しており、同省では同じ時期にブタの間で集団発生が検知され、ブタ連鎖球菌が検出されている。最初のヒト症例は6月の終わりに四川省資陽市で発生した。地元の臨床医により報告された症状には、高熱、全身倦怠、嘔気、嘔吐、が含まれ、引き続き髄膜炎、皮下出血、中毒性ショックがある。潜伏期は短く、病状の進展は急速である。WHOに報告された情報では、感染は死んだブタとの接触が主要因であることを示唆している。今までのところヒト-ヒト間での感染伝播の証拠は見つかっていない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザ	J Virol 79(16):10821-10825	ベトナムでヒト感染を伴ったH5N1型鳥インフルエンザウイルスがブタに蔓延していたか否かを判定するために、2004年のベトナムのブタにおいてH5N1型インフルエンザウイルスへの曝露を示す血清学的証拠を調査した。検査したブタ血清3,175検体中の8検体(0.25%)は、ウイルス中和試験およびウエスタンブロット法を行った結果、2004年に分離されたH5N1型鳥インフルエンザウイルスが陽性であった。ブタにおいて2004年のアジアのH5N1型ウイルスの複製および伝播性について実験的研究を行ったところ、検査した全ウイルスがブタ呼吸器で複製されたが、接触したブタにはいずれも伝播されなかったことが明らかになった。鼻腔内拭い液のウイルス力価は2日目に最高値に達し、試験したブタ4例中2例の肝臓では低いウイルス力価が認められた。本試験では、ブタは致死性の高いアジアのH5N1型ウイルスに感染する可能性はあるが、これらのウイルスは実験条件下においてブタ間では容易に伝播しないことを示した。
											ブタ連鎖球菌	Chin J Prev Med 2000; 34:150-2	ブタ連鎖球菌感染症候群の臨床における症状表現は主に、連鎖球菌トキシックショック症候群及び連鎖球菌性髄膜炎型症候群であった。患者の血液及び脳脊髄液中より各々3株の連鎖球菌株を分離し、成長特性、形状特性、生化学的特性、菌体脂肪酸分析、血清凝集などの一連の評価を行った結果、この6株は、全てブタ連鎖球菌II型であることが判明した。疫学的調査などを通して、本疾患は感染性の疾患であること、ヒトとヒトの間での感染性が認められないこと、この菌に感染している、もしくは、感染により死亡したブタとの接触に関係があることを実証した。ランダムプライマーPCR技術分析により、人由来性及びブタ由来性菌株が同源性を有することが明らかになった。本疾患の病原体はブタ連鎖球菌II型であり、感染経路は、この連鎖球菌に感染しているブタ、あるいはこの感染により死亡したブタに直接接触することである。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2006/2/8	58059	東洋紡績株式会社	滅菌済み開心術用チューブ及びカテーテル 膜型人工肺補助循環装置	ヘパリンナトリウム	豚小腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	ブタ連鎖球菌	<a href="http://idsc.nih.gov/disease/streptococcus_suis/050816suis.html">http://idsc.nih.gov/disease/streptococcus_suis/050816suis.html</a>	四川省でブタ連鎖球菌が集団発生。2005/8/3現在206例発生し、ヒト387例が死亡。18人の患者が渋滞。最初のヒト症例は6月の終わりに四川省資陽市において発生。報告されたほとんどの症例が成人男性の農夫。地元の臨床医によって報告された症状には、高熱、全身倦怠、嘔吐が含まれ、これに続いて髄膜炎、皮下出血、中毒性ショック、そして重症例には意識消失がある。潜伏期は短く、病状の発展は急速である。
											ブタ連鎖球菌	<a href="http://www.wpro.who.int/media_centre/news/news_20050816.htm">http://www.wpro.who.int/media_centre/news/news_20050816.htm</a>	四川省でブタ連鎖球菌が集団発生。2005/8/3現在206例発生し、ヒト387例が死亡。18人の患者が渋滞。最初のヒト症例は6月の終わりに四川省資陽市において発生。報告されたほとんどの症例が成人男性の農夫。地元の臨床医によって報告された症状には、高熱、全身倦怠、嘔吐が含まれ、これに続いて髄膜炎、皮下出血、中毒性ショック、そして重症例には意識消失がある。潜伏期は短く、病状の発展は急速である。
											ブタ連鎖球菌	<a href="http://forbes.com/work/feeds/afx/2005/06/22/afx2105052.html">http://forbes.com/work/feeds/afx/2005/06/22/afx2105052.html</a>	四川省においてブタ647頭がStreptococcus suis 2型に感染により死亡。感染症は2005年6月下旬に発生し、7月20日頃ピークに達し、急激に減少した。新規症例は8月6日以後発生していない。感染症はStreptococcus suis 2型が原因であった。
											ブタ連鎖球菌	Weekly epidemiological record (12 AUGUST 2005, 80th YEAR) No. 32, 2005, 80, 269-276	中国衛生部は、ブタ連鎖球菌感染のブタ集団発生について、ヒトの感染を206例報告済み。うち38例でヒト死亡を確認。発生は全て四川省、多くのブタが飼育される地域。最初のヒト感染報告は6月終わり。以降、20例の原因不明の患者が入院していた。WHOへの報告で、感染症は発症か死んだブタとの密接な接触が主原因。ヒトにおける集団発生は特異的なもの。WHOは動向を見守る体制。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ブタ連鎖球菌	<a href="http://www.forth.go.jp/hpro/bin/hb2141.cgi?key=20050812%2D0060">http://www.forth.go.jp/hpro/bin/hb2141.cgi?key=20050812%2D0060</a>	四川省、死者39名がでて致死的なブタの感染症による8例目の患者が香港で発生した。健康保護センター（CHP）と保健局は、78歳女性が、8月8日に病院に収容された際に、強毒性のブタ連鎖球菌感染と診断されたと報告。患者は香港外への旅行歴なし、家族内2次感染もなし。ブタ連鎖球菌集団感染は、中国政府が患者数十名および死者をだしたと発表した以降、国際的な関心を集めている。
											ブタ連鎖球菌	<a href="http://idsc.nih.gov/disease/streptococcus_suis/050816suis.html">http://idsc.nih.gov/disease/streptococcus_suis/050816suis.html</a>	四川省でブタ連鎖球菌感染が集団発生。2005/8/16現在215例発生しヒト39例が死亡。発熱、全身倦怠、嘔吐、嘔気、多くの例でこれに引き続く髄膜炎、皮下出血、中毒性ショック、意識障害など、様々な臨床兆候を呈する。ほとんどすべての患者の職業は、地元の農業従事者や肉屋であり、役80%が男性で、病豚の屠殺や精肉の販売に携わっていた人々であった。当局のここまでの調査に基づくと、ヒト-ヒト感染の証拠は全くなく、また患者の治療に当たっている医療従事者にも感染はみられていない。
											ブタ連鎖球菌	<a href="http://www.wpro.who.int/media_centre/news/news_20050816.htm">http://www.wpro.who.int/media_centre/news/news_20050816.htm</a>	四川省でブタ連鎖球菌感染が集団発生。2005/8/16、215例発生しヒト39例が死亡。発熱、全身倦怠、嘔吐、嘔気、多くの例でこれに引き続く髄膜炎、皮下出血、中毒性ショック、意識障害など、様々な臨床兆候を呈する。ほとんどすべての患者の職業は、地元の農業従事者や肉屋であり、役80%が男性で、病豚の屠殺や精肉の販売に携わっていた人々であった。当局のここまでの調査に基づくと、ヒト-ヒト感染の証拠は全くなく、また患者の治療に当たっている医療従事者にも感染はみられていない。
											ブタ連鎖球菌	WHO ( <a href="http://www.wpro.who.int/media_centre/news/news_20050816.htm">http://www.wpro.who.int/media_centre/news/news_20050816.htm</a> )	四川省でブタ連鎖球菌の集団発生あり。中国衛生局の調査でStreptococcus suisに関連したものであるとの結論。感染者は、ほとんど男性で農業従事者、食肉取扱いに携わった人々。ヒト採取の検体より血清2型のStreptococcus suisによる感染を確認。ヒト-ヒト感染の証拠はなし。しかし、今回の集団発生、特に死亡者が多くでたことの確認に、さらに調査必要。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザ	<a href="http://idsc.nih.gov/jp/disease/avian_influenza/56who6.html">http://idsc.nih.gov/jp/disease/avian_influenza/56who6.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例2例確認。1例目は湖南省の9歳の少年、回復済み。2例目は安徽省の家禽農場で働いていた24歳の女性死亡。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int/csr/don/2005_11_17/en/index.html">http://www.who.int/csr/don/2005_11_17/en/index.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例2例確認。1例目は湖南省の9歳の少年、回復済み。2例目は安徽省の家禽農場で働いていた24歳の女性死亡。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://idsc.nih.gov/jp/disease/avian_influenza/56who7.html">http://idsc.nih.gov/jp/disease/avian_influenza/56who7.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例1例確認。安徽省の35歳の農家の女性死亡。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int/csr/don/2005_11_24/en/index.html">http://www.who.int/csr/don/2005_11_24/en/index.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例1例確認。安徽省の35歳の農家の女性死亡。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://idsc.nih.gov/jp/disease/avian_influenza/56who09.html">http://idsc.nih.gov/jp/disease/avian_influenza/56who09.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例2例確認。安徽省の24歳と35歳の農家の女性、ともに死亡。 インドネシアにおいてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例1例確認。Java州の16歳の少年。患者が入院する5日前に同胞2人が死亡。インドネシアでは合計12例の感染症例のうち7例が死亡。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int/csr/don/2005_11_29/en/index.html">http://www.who.int/csr/don/2005_11_29/en/index.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例2例確認。安徽省の24歳と35歳の農家の女性、ともに死亡。 インドネシアにおいてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例1例確認。Java州の16歳の少年。患者が入院する5日前に同胞2人が死亡。インドネシアでは合計12例の感染症例のうち7例が死亡。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザ	<a href="http://idsc.nih.gov.jp/disease/avian_influenza/56who11.html">http://idsc.nih.gov.jp/disease/avian_influenza/56who11.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例1例確認。広西チワン族自治区在住の10歳の女児。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int.csr/don/2005_12_07/en/index.html">http://www.who.int.csr/don/2005_12_07/en/index.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例1例確認。広西チワン族自治区在住の10歳の女児。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://idsc.nih.gov.jp/disease/avian_influenza/56who12.html">http://idsc.nih.gov.jp/disease/avian_influenza/56who12.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例確認。遼寧省の31歳の農家の女性。タイにおいてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例確認。Nakhonnayok県在住の5歳の男児死亡。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int.csr/don/2005_12_09/en/index.html">http://www.who.int.csr/don/2005_12_09/en/index.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例確認。遼寧省の31歳の農家の女性。タイにおいてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例確認。Nakhonnayok県在住の5歳の男児死亡。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://idsc.nih.gov.jp/disease/avian_influenza/57who01.html">http://idsc.nih.gov.jp/disease/avian_influenza/57who01.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例確認。江西省在住35歳男性。患者の住居の近くにいたアヒルにおいてH5型ウイルスの存在を確認。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int.csr/don/2005_12_16/en/index.html">http://www.who.int.csr/don/2005_12_16/en/index.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例確認。江西省在住35歳男性。患者の住居の近くにいたアヒルにおいてH5型ウイルスの存在を確認。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザ	<a href="http://idsc.nih.gov/jp/disease/avian_influenza/57who03.html">http://idsc.nih.gov/jp/disease/avian_influenza/57who03.html</a>	中国福建省在住の41歳女性がH5N1亜型トリインフルエンザウイルスに感染。この症例は中国における7番目の検査確定症例であり、そのうち3例が死亡。これまでに湖南、安、広西、遼寧、江西、福建から症例を報告。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int/csr/don/2005_12_30/en/index.html">http://www.who.int/csr/don/2005_12_30/en/index.html</a>	中国福建省在住の41歳女性がH5N1亜型トリインフルエンザウイルスに感染。この症例は中国における7番目の検査確定症例であり、そのうち3例が死亡。これまでに湖南、安、広西、遼寧、江西、福建から症例を報告。
2006/2/14	58060	ガンプロ株式会社	ヘパリン使用緊急時ブラッドアクセス留置用カテーテル	ヘパリンナトリウム	豚腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	WHO ( <a href="http://www.who.int/csr/don/2005_11_17/en/index.html">http://www.who.int/csr/don/2005_11_17/en/index.html</a> )	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例2例確認。1例目は湖南省の9歳の少年、回復済み。2例目は安徽省の家禽農場で働いていた24歳の女性死亡。
											鳥インフルエンザ	IDSC ( <a href="http://idsc.nih.gov/jp/disease/avian_influenza/56who6.html">http://idsc.nih.gov/jp/disease/avian_influenza/56who6.html</a> )	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例2例確認。1例目は湖南省の9歳の少年、回復済み。2例目は安徽省の家禽農場で働いていた24歳の女性死亡。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int/csr/don/2005_11_24/en/index.html">http://www.who.int/csr/don/2005_11_24/en/index.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例1例確認。安徽省の35歳の農家の女性死亡。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://idsc.nih.gov/jp/disease/avian_influenza/56who7.htm">http://idsc.nih.gov/jp/disease/avian_influenza/56who7.htm</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例1例確認。安徽省の35歳の農家の女性死亡。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int.csr/don/2005_11_29/en/index.html">http://www.who.int.csr/don/2005_11_29/en/index.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例2例確認。安徽省の24歳と35歳の農家の女性、ともに死亡。 インドネシアにおいてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例1例確認。Java州の16歳の少年。患者が入院する5日前に同胞2人が志望。インドネシアでは合計12例の感染症例のうち7例が死亡。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/56who9.html">http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/56who9.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例2例確認。安徽省の24歳と35歳の農家の女性、ともに死亡。 インドネシアにおいてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例1例確認。Java州の16歳の少年。患者が入院する5日前に同胞2人が志望。インドネシアでは合計12例の感染症例のうち7例が死亡。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int.csr/don/2005_12_07/en/index.html">http://www.who.int.csr/don/2005_12_07/en/index.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例1例確認。広西チワン族自治区在住の10歳の女子。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/56who11.html">http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/56who11.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例1例確認。広西チワン族自治区在住の10歳の女子。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int.csr/don/2005_12_09/en/index.html">http://www.who.int.csr/don/2005_12_09/en/index.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例確認。遼寧省の31歳の農家の女性。 タイにおいてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例確認。Nakhonnayok県在住の5歳の男児死亡。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/56who12.html">http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/56who12.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例確認。遼寧省の31歳の農家の女性。 タイ：H5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例確認。Nakhonnayok県在住の5歳の男子児死亡。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int/csr/don/2005_12_16/en/index.html">http://www.who.int/csr/don/2005_12_16/en/index.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例確認。江西省在住35歳の男性。患者の住居近くに居たアヒルにおいてH5型ウイルスの存在を確認。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://idsc.nih.gov.jp/disease/avian_influenza/57who01.html">http://idsc.nih.gov.jp/disease/avian_influenza/57who01.html</a>	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例確認。江西省在住35歳の男性。患者の住居近くに居たアヒルにおいてH5型ウイルスの存在を確認。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int/csr/don/2005_12_30/en/index.html">http://www.who.int/csr/don/2005_12_30/en/index.html</a>	中国において福建省在住の41歳女性がH5N1亜型トリインフルエンザに感染。この症例は中国における7番目の検査確定症例であり、そのうち3例が死亡。これまでに湖南、安、江西、遼寧、江西、福建から症例を報告。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://idsc.nih.gov.jp/disease/avian_influenza/57who03.html">http://idsc.nih.gov.jp/disease/avian_influenza/57who03.html</a>	福建省在住の41歳女性がH5N1亜型トリインフルエンザに感染。この症例は中国における7番目の検査確定症例であり、そのうち3例が死亡。これまでに湖南、安、江西、遼寧、江西、福建から症例を報告。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int/csr/don/2005_08_03/en/index.html">http://www.who.int/csr/don/2005_08_03/en/index.html</a>	四川省でブタ連鎖球菌が集団発生。2005/8/3現在206例発生し、ヒト387例が死亡。18人の患者が渋滞。最初のヒト症例は6月の終わりに四川省資陽市において発生。報告されたほとんどの症例が成人男性の農夫。地元の臨床医によって報告された症状には、高熱、全身倦怠、嘔吐が含まれ、これに続いて髄膜炎、皮下出血、中毒性ショック、そして重症例には意識消失がある。潜伏期は短く、病状の発展は急速である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザ	<a href="http://idsc.nih.gov/jp/disease/streptococcus_suis/050803suis.html">http://idsc.nih.gov/jp/disease/streptococcus_suis/050803suis.html</a>	四川省でブタ連鎖球菌が集団発生。2005/8/3現在206例発生し、ヒト387例が死亡。18人の患者が洪滞。最初のヒト症例は6月の終わりに四川省資陽市において発生。報告されたほとんどの症例が成人男性の農夫。地元の臨床医によって報告された症状には、高熱、全身倦怠、嘔吐が含まれ、これに続いて髄膜炎、皮下出血、中毒性ショック、そして重症例には意識消失がある。潜伏期は短く、病状の発展は急速である。
											鳥インフルエンザ	OIE Disease information <a href="http://www.oie.int/eng/info/hebd/AIS_54.HTM">http://www.oie.int/eng/info/hebd/AIS_54.HTM</a>	四川省においてブタ647頭がStreptococcus suis 2型に感染により死亡。感染症は2005年6月下旬に発生し、7月20日頃ピークに達し、急激に減少した。新規症例は8月6日以後発生していない。感染症はStreptococcus suis 2型が原因であった。
											鳥インフルエンザ	Weekly epidemiological record (12 AUGUST 2005, 80th YEAR) No. 32, 2005, 80, 269-276	中国衛生部は、ブタ連鎖球菌感染のブタ集団発生について、ヒトの感染を206例報告済み。うち38例でヒト死亡を確認。発生は全て四川省、多くのブタが飼育される地域。最初のヒト感染報告は6月終わり。以降、20例の原因不明の患者が入院していた。WHOへの報告で、感染症は発症か死んだブタとの密接な接触が主原因。ヒトにおける集団発生は特異的なもの。WHOは動向を見守る体制。
											鳥インフルエンザ	<a href="http://www.wpro.who.int/media_centre/news/news_20050816.htm">http://www.wpro.who.int/media_centre/news/news_20050816.htm</a>	四川省でブタ連鎖球菌感染が集団発生。2005/8/16現在215例発生しヒト39例が死亡。発熱、全身倦怠、嘔吐、嘔気、多くの例でこれに引き続く髄膜炎、皮下出血、中毒性ショック、意識障害など、様々な臨床兆候を呈する。ほとんどすべての患者の職業は、地元の農業従事者や肉屋であり、役80%が男性で、病豚の屠殺や精肉の販売に携わっていた人々であった。当局のここまでの調査に基づくと、ヒト-ヒト感染の証拠は全くなく、また患者の治療に当たっている医療従事者にも感染はみられていない。しかし、今回の集団発生、特に死亡者が多く出たことの確認にさらに調査必要。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザ	http://idsc.nih.gov/disease/streptococcus_suis/050816suis.html	四川省でブタ連鎖球菌感染が集団発生。2005/8/16現在215例発生しヒト39例が死亡。発熱、全身倦怠、嘔吐、嘔気、多くの例でこれに引き続く髄膜炎、皮下出血、中毒性ショック、意識障害など、様々な臨床兆候を呈する。ほとんどすべての患者の職業は、地元の農業従事者や肉屋であり、役80%が男性で、病豚の屠殺や精肉の販売に携わっていた人々であった。当局のここまでの調査に基づくと、ヒト-ヒト感染の証拠は全くなく、また患者の治療に当たっている医療従事者にも感染はみられていない。しかし、今回の集団発生、特に死亡者が多く出たことの確認にさらに調査必要。
2006/2/17	58061	三矢メディカル株式会社	人工心肺用血液回路	ヘパリン	豚小腸	イタリア	有効成分	無	無	無			
2006/3/1	58062	株式会社ジェイ・エム・エス	ヘパリン使用人工心肺用回路システム ヘパリン使用人工心肺回路用血液フィルタ ヘパリン使用チューブ接続用コネクタ ヘパリン使用単回使用人工心肺用熱交換器 ヘパリン使用体外式模型人工肺 ヘパリン使用心臓血管縫合補助具 ヘパリン使用単回使用遠心ポンプ ヘパリン使用人工心肺用回路用血液フィルタ	ヘパリン	ブタ腸管粘膜	スペイン	有効成分	有	無	無	ブタ連鎖球菌	OIE Disease Information (9 September 2005)	ブタ合計647例がStreptococcus suis感染症により死亡した。感染症は2005年6月下旬に発生し、7月20日頃ピークに到達し、急激に減少した。感染症はStreptococcus suis 2型が原因であった。検査の結果、分離株の病原性は、過去に分離された菌と大きな差はなく、また遺伝子的変化は見られなかった。
											HEV	鳥取県衛生環境研究所報 2005; 45:1-3	HEV感染状況を把握するために住民、ブタ、イノシシなどのHEV抗体保有調査を行った。住民のHEV抗体保有率は70歳代以上では16.7%、20歳以下では0%であった。ブタ血清における抗体保有率については地域により0~100%の偏差を示した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザ	Nature 2006; 439:248-9	トリインフルエンザ感染患者から分離したウイルス検体を解析していた研究者チームが、同ウイルスの遺伝子配列に3カ所の変異を確認した。変異のうち少なくとも2カ所は、鳥インフルエンザがヒトに感染しやすいよう働く可能性が高いとしている。
											インフルエンザ	Clinical Infectious Diseases 2006; 42:14-20	豚に曝露された複数のヒト集団について過去の豚・インフルエンザウイルス感染のエビデンスを検討した。豚への職業的曝露により、労働者の豚・インフルエンザウイルス感染のリスクが大幅に増大する。
2006/3/9	58063	日本ベクトン・ディッキンソン株式会社	ヘパリン使用サーモダイリューション用カテーテル	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	米国、中国及びカナダ	有効成分	有	無	無	寄生虫感染	科学 2005; 75:1352-1355	1998年から99年にかけて、激しい呼吸器症状や脳炎等を示す265人の患者と107人の死者(致死率40%)を出したニパウイルス感染症は、マレーシア養豚地帯で発生した。研究の結果、自然宿主は果実や花の蜜を食べるオオコウモリであり、オオコウモリからヒトへの直接感染例は認められなかったことから、ブタを介してヒトに感染する重篤な感染症と結論づけられた。ウイルスがどのように動物種を超えて感染するのか、その機構の解明は人獣共通感染症対策の基盤として重要であるため、ニパウイルスが細胞に侵入する際に利用する受容体の発見と、遺伝子工学によるウイルス粒子の再構築法の開発について紹介した。1) ウイルスはEphrin-B2を介して侵入していることが証明された。2) ニパウイルスゲノムcDNAから感染性ウイルスを作製する技術開発と動物実験系の確立を行った。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											寄生虫感染	Journal of Virology 2005; 79:10821-10825	ヒト感染症に関連するベトナムの鳥インフルエンザウイルスH5N1型が、豚に伝播したかどうかを判定するため、2004年にベトナム国内の豚がインフルエンザウイルスH5N1型に曝露した血清学的エビデンスを調査した。検証した豚の血清3,175サンプルのうち8サンプル(0.25%)が、2004年にウイルス中和試験およびウエスタンブロット法により分離した鳥インフルエンザウイルスH5N1型に対し陽性を示した。2004年のアジアH5N1型ウイルスの、豚における複製および伝播性を実験的に研究した結果、検証した全ウイルスが豚の気道内で複製したが、豚同士の接触ではウイルスは伝播しなかった。鼻スワブから得られたウイルスの力価は2日目にピークに達し、検証した豚4頭のうち2頭の肝臓で低い力価を検出した。これらの所見から、豚は高致死性アジアH5N1型ウイルスに感染しうるが、このウイルスは実験の条件下では豚間で容易に伝播しないことが示唆された。
											サルモネラ	Emerging Infectious Diseases 2005;11:694-698	スペインにおけるSalmonella entericaのDerby血清型の遺伝的多様性について、パルスフィールドゲル電気泳動法(PFGE)により検討した。確認された24種類のPFGEプロファイルの中で、主要クローンは、ヒト由来の19%の株、食物由来の52%の株、そして豚由来の62%の株で検出された。このクローン(クローン1)は豚肉製品から分離されたものであり、豚がその汚染源であることを示唆している。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2006/3/10	58064	テルモ株式会社	滅菌済み心臓用チューブ及びカテーテル 模型人工肺 人工心肺装置の付属品（心内血吸引貯血槽） 人工心肺装置の付属品（静脈貯血槽） 人工心肺装置の付属品（人工心肺用貯血槽） 人工心肺装置の付属品（人工心肺用気泡除去器） 人工心肺装置の付属品（血液ろ過器） その他の人工肺（ディスポーザブル人工心肺システム） 人工心肺用血液回路 人工心肺用ポンプ 滅菌済み血管診断用チューブ及びカテーテル 人工心肺装置の付属品 その他の血液回路（体外循環用血液ガス測定用セル）	ヘパリン	豚小腸粘膜	米国、中国	有効成分	無	無	無			
2006/3/14	58065	株式会社ウベ循環研	ヘパリン使用体内植込み用カテーテル	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerging Infectious Diseases 2005; 11:1664-1672	2004年1月にH5N1亜類型の高度病原性トリインフルエンザウイルスがタイで家畜と人間で最初に確認された。2005年も進行中である。
											細菌感染	Pediatr Infect Dis 2005; 12:1099-1103	2001年8月、R、picketti菌血症の集団発生がルフォアの病院のNICUで起こった。発生の最有望な原因は、汚染されたヘパリン・フラッシュであった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											細菌感染	Clin Microbiol Infect 2006; 12:69-74	ノウイルス感染は、短い持続期間の自己限定の病気とされていたが、大学病院で院内感染発生した。原因となる因子は、新しい異なるグリムズビー-Grimsby・ウイルスであった。
											感染	J Hosp Infect 2006; 30:1-6	廃棄物に存在する微生物からの感染、特に血液媒介ウイルスは最も重大脅威である。臨床廃棄物の管理の簡素化を助長する有力なコスト推進要因をつくることによって、ヨーロッパの危険廃棄物指針に基づく英国法律は、CDCの世界共通/標準予防措置と衝突する。
											細菌感染	J Food Prot 2006 ; 69:22-6	Campylobacter Spp. の抗菌性のパターンを決定するために豚、牛肉と豚からの分離を調べた。豚由来分離株は、テストされた10種の抗菌物質のうち7剤へ最も大きな抵抗性を持っていた。この結果は、いろいろな抗菌剤、とりわけシプロフロキサシンと、エリスロマイシンへのCampylobacterの抗菌物質抵抗性の存在を確かめた。
2006/3/14	58066	エドワーズライフサイエンス株式会社	ヘパリン使用静脈用カテーテルイントロデューサ ヘパリン使用サーモダイリューション用カテーテル ヘパリン使用バルーン付ベアリング向け循環器用カテーテル ヘパリン使用中心静脈用カテーテルイントロデューサキット ヘパリン使用体外式ペースメーカー用心臓電極 ヘパリン使用単回使用遠心ポンプ ヘパリン使用大動脈カニューレ ヘパリン使用人工心肺用回路 ヘパリン使用人工心肺回路用血液フィルタ ヘパリン使用人工心肺用貯血槽	ヘパリンナトリウム	豚小腸粘膜	原本参照	有効成分	有	無	無	ブタ連鎖球菌	WHO/WPRO News, 16 August 2005	最近報告された四川省でのブタ連鎖球菌の集団発生の調査の終了に向けて、中国衛生部はこの集団発生に関して、WHOと更に細部に渡る情報共有を行った。ブタ連鎖球菌の国際的専門家のグループがWHOにより召集され、中国衛生部により提供された情報に基づき検討し、今回のヒトでの集団発生がブタ連鎖球菌を病原体とするものとして矛盾がないとした。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2006/3/15	58067	タカラバイオ株式会社	その他の血液浄化装置	ヒト血清アルブミン	ヒト血液	米国	有効成分	無	無	無			
2006/3/15	58068	タカラバイオ株式会社	その他の血液浄化装置	マウス抗体	マウス脾細胞由来のハイブリドーマの細胞培養液	米国	有効成分	有	無	無	ハンタウイルス	Indian J Med Res 2005; 122:211-215	南インドにおいてはハンタウイルス感染の報告これまでに無いが、血清学的な調査の結果、ヒトへのハンタウイルスの感染が認められたことが報告されている。
2006/3/15	58069	タカラバイオ株式会社	その他の血液浄化装置	羊抗体	ヒツジ血液	ノルウェー	有効成分	有	無	無	HEV	Jpn Med Assoc J 2005; 48:468-470	インドから帰国後にE型肝炎及びパラチフスを呈した症例が報告されている。症例は24歳男性で、2ヵ月間のインド旅行から帰国後に発熱し、パラチフスと診断され治療を受けた。治療後パラチフス菌陰性下においてGOT、GPT等の上昇が認められ、グルカゴンインシュリン療法が開始された。E型肝炎ウイルス(HEV)RNA及びHEV-IgGが陽性であり、E型肝炎と診断された。HEV流行地域から帰国した患者においてはE型肝炎のスクリーニングを行うことが重要であると報告されている。
2006/3/16	58070	東レ株式会社	植込み型医薬品注入器 滅菌済み血管診断用チューブ及びカテーテル その他の外科・整形外科用手術材料(涙液・涙道シリコンチューブ) 滅菌済み体内植込みチューブ及びカテーテル 合成樹脂製人工血管	ヘパリンナトリウム	豚腸粘膜	①～④⑥⑦ ブラジル⑤ ⑧⑨中国	有効成分	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2006/3/23	58071	ニプロ株式会社	その他の滅菌済み留置チューブ及びカテーテル(血管内留置用カテーテル) 滅菌済み体内植込みチューブ及びカテーテル 滅菌済み中心静脈注射用チューブ及びカテーテル 滅菌済み人工腎臓用留置針 模型人工肺	ヘパリンナトリウム	豚小腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	HCV	Mem Inst Oswald Cruz, Rio de Janeiro 2005; 100:117-122	E型肝炎ウイルス(HEV)感染の血清学的な証拠が、本感染症が蔓延していないエリアにおいて、ヒトとヒト以外の動物で観察された。このことは、動物がヒトへのウイルス転移の重要な保有者でありうることを示唆された。
											寄生虫感染	Kinetoplastid Biology and Disease 2005; 4:1-7	トリパノソーマはサハラ砂漠以南のアフリカでの牧畜の主要な問題である。そして、それが風土病である36の国の農業開発を制限している。人間では、治療していない場合、アフリカ睡眠病は致命的であり、深刻な罹病率を引き起こす。人間と家畜の両方の感染についての報告。
											HEV	The Journal of Infectious Diseases 2005;192:1166-72	1996年から2003年の間、186件のE型肝炎が血清学的に診断されている。これらの17症例(9%)が海外の旅行者とは関係なかった。患者は、55歳以上(56-82歳くらい)の男性である傾向があった(76%)。2人の患者が劇症肝炎を引き起こした。
											ブタ連鎖球菌	WHO (http://www.wpro.who.int/mediacentre/news/news_2005_08_03.htm)	四川省でブタ連鎖球菌が集団発生。2005/8/3現在206例発生し、ヒト38例が死亡、18人の患者が重体。最初のヒト症例は6月の終わりに四川省資陽市において発生。報告されたほとんどの症例が成人男性の農夫。地元の臨床医によって報告された症状には、高熱、全身倦怠、嘔吐、嘔気、が含まれ、これに続いて髄膜炎、皮下出血、中毒性ショック、そして重傷例には意識消失がある。潜伏期は短く、病状の進展は急速である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ブタ連鎖球菌	WHO ( <a href="http://www.wpro.who.int/mediacentre/news/news_20050816.htm">http://www.wpro.who.int/mediacentre/news/news_20050816.htm</a> )	四川省でブタ連鎖球菌が集団発生。2005/8/16現在215例発生しヒト39例が死亡。発熱、全身倦怠、嘔吐、嘔気、多くの例でそれに引き続く髄膜炎、皮下出血、中毒性ショック、意識障害など、様々な臨床兆候を呈する。ほとんどすべての患者の職業は、地元の農業従事者や肉屋であり、約80%が男性で、病豚の屠畜や精肉の販売に携わっていた人々であった。当局はここまでの調査に基づくと、ヒト-ヒト感染の証拠は全くなく、また、患者の治療に当たっている医療従事者にも感染はみられていない。
											鳥インフルエンザ	WHO ( <a href="http://www.who.int.csr/don/2005_11_17/en/index.html">http://www.who.int.csr/don/2005_11_17/en/index.html</a> )	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例2例確認。1例目は湖南省の9歳の少年。回復済み。2例目は安徽省の家禽農場で働いていた24歳の女性。死亡。
											鳥インフルエンザ	WHO ( <a href="http://www.who.int.csr/don/2005_11_24/en/index.html">http://www.who.int.csr/don/2005_11_24/en/index.html</a> )	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例1例確認。安徽省の35歳の農家の女性。死亡。
											鳥インフルエンザ	WHO ( <a href="http://www.who.int.csr/don/2005_11_29/en/index.html">http://www.who.int.csr/don/2005_11_29/en/index.html</a> )	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例2例確認。安徽省の24歳と35歳の農家の女性。ともに死亡。 インドネシアにおいてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例1例確認。Java州の16歳の少年。患者が入院する5日前に同胞2人が死亡。インドネシアでは合計12例の感染症例のうち7例が死亡。
											鳥インフルエンザ	WHO ( <a href="http://www.who.int.csr/don/2005_12_07/en/index.html">http://www.who.int.csr/don/2005_12_07/en/index.html</a> )	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例1例確認。広西チワン族自治区在住の10歳の女兒。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザ	WHO ( <a href="http://www.who.int.csr/don/2005_12_09/en/index.html">http://www.who.int.csr/don/2005_12_09/en/index.html</a> )	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例確認。遼寧省の31歳の農家の女性。タイにおいてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例確認。Nakhonnayok県在住の5歳の男児。死亡。
											鳥インフルエンザ	WHO ( <a href="http://www.who.int.csr/don/2005_12_16/en/index.html">http://www.who.int.csr/don/2005_12_16/en/index.html</a> )	中国においてH5N1亜型トリインフルエンザのヒト感染例確認。江西省在住35歳男性。患者の住居の近くにいたアヒルにおいてH5型ウイルスの存在を確認。
											鳥インフルエンザ	WHO ( <a href="http://www.who.int.csr/don/2005_12_30/en/index.html">http://www.who.int.csr/don/2005_12_30/en/index.html</a> )	福建省在住の41歳女性がH5N1亜型トリインフルエンザウイルスに感染。この症例は中国における7番目の検査確定症例であり、そのうち3例が死亡。これまでに湖南、安、広西、遼寧、江西、福建から症例を報告。
2006/3/24	58072	日本シャーウッド株式会社	ウロキナーゼ使用中心静脈用カテーテル ウロキナーゼ使用胸部排液用カテーテル ウロキナーゼ使用緊急時ブラッドアクセス留置用カテーテル	ウロキナーゼ	ヒト尿	中華人民共和国	添加物	無	無	無			
2006/3/24	58073	エドワーズライフサイエンス株式会社	ブタ心臓弁 人工血管付ブタ心臓弁 植込み型補助人工心臓システム	ブタ心臓弁	ブタ心臓弁	米国	有効成分	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2006/3/30	58074	トノクラ医科工業株式会社	ヘパリン使用人工心肺用回路システム ヘパリン使用大動脈カニューレ ヘパリン使用体外式模型人工肺	ヘパリンナトリウム	豚小腸粘膜	アメリカ合衆国	添加物	有	無	無	鳥インフルエンザ	米国CDC <a href="http://www.cdc.gov/flu/avian/gov/en-info/facts.htm">http://www.cdc.gov/flu/avian/gov/en-info/facts.htm</a>	2004年6月下旬以降、家禽におけるインフルエンザH5N1の新規アウトブレイクがアジアにおける数カ国（カンボジア、中国（チベット）、インドネシア、カザフスタン、マレーシア、モンゴル、ロシア（シベリア）、タイおよびベトナム）から報告されており、これらのアウトブレイクは進行中と思われる。インフルエンザH5N1感染症はトルコ、ルーマニアおよびウクライナの家畜においても報告されている。インフルエンザH5N1のアウトブレイクは中国、クロアチア、モンゴルおよびルーマニアの渡り鳥においても報告されている。2006年1月7日現在、インフルエンザA（H5N1）感染症ヒト症例はカンボジア、中国、インドネシア、タイ、ベトナムおよび最近ではトルコで数例が報告されている。2006年1月9日付けのWHO状況報告書ではトルコにおける追加症例10例からのサンプルにおいてトリインフルエンザH5サブタイプが検出されたと記載されている。これらのサンプルはH5N1株を含んでいるかどうかを決定するために詳細分析が行われている。H5N1アウトブレイク中のヒトの健康に対するリスク、ヒトにおけるH5N1ウイルスに対する治療および予防接種などについて記載されている。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	英SCIEH <a href="http://www.show.scot.nhs.uk/scieh/PDF/pdf2006/0604.pdf">http://www.show.scot.nhs.uk/scieh/PDF/pdf2006/0604.pdf</a>	2005年12月末までに英国において変異型クロイツフェルト・ヤコブ病（vCJD）が累計159例報告され、そのうち153例は死亡した。英国外では、フランスにおける症例数は15例と少ないままであり、アイルランドにおいて4例、米国において2例、カナダ、イタリア、日本、オランダ、ポルトガル、サウジアラビア、およびスペインにおいて各々1例である。国立CJDサーベイランスユニットによって最近発表されたデータでは、英国において2005年にvCJDによる死亡が計5例報告され、前年（2004年）の計9例よりも4例少なかった。死亡率モデリングの結果は、現在の流行の波（epidemic wave）は2000年の死亡28例がピークであり、それ以降は下降していることなどについて記載されている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												<p>英SCIEH  <a href="http://www.show.scot.nhs.uk/scieh/PDF/pdf2005/0536.pdf">http://www.show.scot.nhs.uk/scieh/PDF/pdf2005/0536.pdf</a></p>	<p>各種の伝達性海綿状脳症が食物連鎖に入るのを防ぐために計画された規制の将来的に起こりうる改正概要の記載「TSEロードマップ」が欧州委員会により発表された。ウシにおけるBSE症例およびヒトにおける変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の減少の結果、規制が緩められる可能性があり、この規制は2001年以降の農場の動物のための餌に肉骨粉を用いることに対する禁止や、能動的ウシサーベイランス（ヒツジおよびヤギも含まれるよう拡大された）、2000年10月以降に12ヵ月令を超えていた反芻動物からの特定危険部位である主な中枢神経系組織の除去、動物副製品についての制限およびBSE症例検出後の処分対策を含んでいる。各措置は見直され、定量的リスク評価が良好であった場合は短期および長期的改正が提案される可能性がある。現行の規制によりEUに渡ってBSE症例が大幅に減少。2002年記録されたBSE症例は2129例で、2004年までに850例に減少。陽性のBSE症例の平均年齢が上昇したことから、BSE汚染が過去の特定の期間に発生したという見解が支持される。特定危険部位が除去される年齢制限はBSEサーベイランスからのデータに基づき見直される可能性があり、サーベイランスの規模の縮小などの可能性についてロードマップで記載されている。</p>
												<p>ウエストナイルウイルス  <a href="http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm5506a2.htm">http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm5506a2.htm</a></p>	<p>2005年、西ナイルウイルスのサーベイランス、予防、および管理活動を実施するための州および大都市・郡の保健局の能力を評価するため、Council of State and Territorial Epidemiologists (CSTE) はCDCなどからの援助を受け、50州および6つの大都市・郡の西ナイルウイルス計画の調査を行った。ヒト、トリ、ウマ、あるいは蚊の西ナイルウイルスについてのサーベイランスおよび管理計画が、参加した全ての州および都市において十分に発展していたことが示された、この評価の結果の概要を報告。州、都市・郡におけるサーベイランス活動、研究室における検査、予防活動、1999年-2005年に、米国においてヒトにおける西ナイルウイルス疾患症例が合計19525例、死亡771例が報告されたことなどについて記載されている。</p>

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											狂犬病	ProMed Mail 20060102-0040 <a href="http://www.forth.go.jp/hpro/bin/hb2141.cgi?key=20060102%2D0040">http://www.forth.go.jp/hpro/bin/hb2141.cgi?key=20060102%2D0040</a>	Rogers郡保健部は2005年12月31日に、狂犬病に感染したウシからの生ミルクを飲用して狂犬病に暴露された危険性があると同定された住民の治療を開始するため、特別診療所を開設。オクラホマ州保健局当局は先週、Claremoreにある乳業が12月4日～19日に販売した未殺菌のミルクやクリームを摂食した個人は暴露された可能性があり、これまでに、45名が狂犬病暴露後ワクチン接種のレジユメに従って治療を受け始め、問題となったミルクが加熱殺菌されていない可能性など公表した。なお、オクラホマ州保健局当局によれば、狂犬病に感染したウシからの生ミルクを飲用して狂犬病に曝露された可能性があるため、さらなる住民が治療を受けている。その後、46名からさらに増加して、62名が治療を受けていると当局が発表。米国疾病予防対策センターCDCは、死亡したウシの脳組織を検査し、州当局が発表したように、狂犬病に罹患していたと結論した。州疫学官は、予備的な州機関でのウシの乳房検査は陰性であったが、CDCによる乳房検査結果は2006年1月第1週まで判明しないとしている。
											寄生虫感染	CDC-MMWR <a href="http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm5502a2.htm">http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm5502a2.htm</a>	Louisiana州公衆衛生当局およびCDCによる、Louisiana州の男女における毒素産生性Vibrio cholerae 01感染症2例についての調査を報告（これらの症例は調理済みでないあるいは汚染された海産物の消費が原因）。ハリケーン・カトリーナ後に、コレラ毒素非産生性Vibrio疾患がLouisiana州およびMississippi州の住民22例において報告されたが、コレラの流行（epidemic）は確認されず、湾岸住民に対するリスクが増加したという証拠はなかった。1996-2005年、米CDCに毒素産生性V. cholerae 01が計64例報告され、そのうち35例においてコレラ感染は外国旅行中に起こった。残りの29例は米国において感染が起こり、うち22例は湾岸の海産物の消費が原因ではなかった。2005年の米国のコレラ症例11例のうち7例はハリケーン・カトリーナおよびリタ後の10-12月に報告され、本報告の2例に加え、グアムにおいて2例が発生し、残り3例は外国旅行が原因であったことなどについて記載されている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											口蹄疫	ProMed Mail 12 oct 2005	ブラジル当局は、10月8日に口蹄疫の流行が確認された地に隣接するMato Grosso do Sul州で、第二の口蹄疫流行の可能性があると調査している。ブラジルの専門家は、最初の口蹄疫流行地から半径25 km以内にあるJapora村で、FMDに似た症状を呈する動物を検知した。
											HIV	WHO http://www.who.int/mediacentre/news/releases/2005/unaid_who/en/index.html	成人におけるHIV感染率は特定の国々で低減しておりコンドームの使用増加などの感染予防の変化が重要な役目を果たしたとする新たなエビデンスがあるが、新たな国連報告はHIV伝播における全体的な傾向は依然として増加しており、流行を減速させるためより一層のHIV予防の取り組みが必要とされることも示している。ケニア、ジンバブエおよびカリブ海地域の数カ国のここ数年のHIV感染率低減や、ジンバブエの妊婦、ブルキナファソ都市部の若年妊婦における感染率低下についてのエビデンスは『AIDS Epidemic Update (AIDS流行最新情報) 2005年』において発表されている。特定の国々での感染率低減にも関わらず、HIV感染者として生活する数はカリブ海地域を除く世界全域において増加し続けている。2005年、規感染症例500万例が追加された。全世界では推定4030万人がHIV感染者として生活しており、最高レベルに達している。2005年、300万人以上がAIDS関連疾患で死亡し、このうち50万人以上が小児であった。報告によれば、東ヨーロッパおよび中央アジアおよび東アジアにおいてHIV感染症の最も急速な増加が起こっているが、サハラ以南のアフリカ諸国は世界で最も影響を受け、新規感染の64%が発生している。その他HIV治療の効果、HIV予防強化に対する将来のチャレンジなどが記載されている。
2006/3/31	58075	カーディナルヘルス・ジャパン228株式会社	滅菌済み体内留置排水用チューブ及びカテーテル	ヘパリン(ナトリウム塩)	ブタ小腸粘膜	米国・カナダ	有効成分	有	無	無	寄生虫感染	Office International des Epizooties Diseases Information 8/12/2005	2005年7月1日より発生。豚コレラの発症数として、3エリア合計で疑い例229頭、発症40頭、死亡65頭。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											口蹄疫	Office International des Epizooties Diseases Information 2/2/2005	Mato Grosso do Sul州及びParaná州にて2005年9月26日より発生。牛32,489頭、豚511頭、小家畜652頭を処分した後、2006年2月1日の報告時点での感染例は確認されていない。
											鳥インフルエンザ	英HPA CDR Weekly	WHOはAnkaraにあるトルコ国立インフルエンザセンターが同国で18例目のH5N1インフルエンザヒト症例を確定したと報告した。この新規確定症例により、トルコにおける総症例数は21例となり、そのうち4例は死亡した。21例中19例が4才～18才の小児で、トルコ81県中Agri, Ankara, Kastamonu, Corum, Samsun, Van, Sivas, SanliurfaおよびSiirt県から報告されていることなど。インドネシア-2006年1月19日、WHOはインドネシア保健省がさらにH5N1トリインフルエンザウイルスによるヒト感染症例1例を確認したことを報告した。症例はジャカルタ病院の産科病棟で助産師として勤務する29才の女性で、2005年12月31日に発症、2006年1月2日に入院、1月11日に死亡した。この症例は、2005年以降のインドネシアにおける17例目の症例で、そのうち12例が死亡したことなど。中国-2006年1月14日、WHOは中国衛生省が同国9例目のH5N1トリインフルエンザウイルスによるヒト感染症例を確認したと報告した。症例は中国南西部(Sichuan省)の35才の女性で、2006年1月3日に発症、1月10日に発熱と肺炎の症状のため入院し、1月11日に死亡した。報告された9例のうち6例が死亡した。
											鳥インフルエンザ	WHO Epidemic and Pandemic Alert and Response 2/2/2006	2003年から2006年2月2日までの7カ国(カンボジア、中国、インドネシア、イラク、タイ、トルコ、ベトナム)における発症例は161、うち死亡例は86。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ウイルス 2005; 55:45-54	1996年に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(Vcjd)の存在が報告されてから、プリオン病は人獣共通感染症と認識されるようになった。2001年には我が国でもBSE 感染牛が見つかり、大きな社会問題となった。欧州におけるBSE 発生は減少傾向にあり、英国におけるVcjd の発生も減少傾向が認められるが、欧州以外の国でのBSE の発生、輸血によるVcjd の伝播、日本におけるVcjd 患者の発生など、危惧していたことが次々に現実となった。BSE の感染拡大防止と撲滅には、BSE スクリーニング/サーベイランス、特定危険部位の除去、飼料規制の継続が必要である。また、輸血用血液、医薬品原料などのプリオン汚染を摘発して排除するためには、高感度プリオン検出技術の開発が望まれる。さらに、人プリオン病の治療法確立も重要な課題である。
											ウエストナイルウイルス	米CDC-MMWR	米国において、ArboNETを介して米CDCに報告された暫定的西ナイルウイルスサーベイランスデータの概要。2005年12月1日現在、米42州の596郡からヒトにおける西ナイルウイルス疾患が合計2744例報告され、これらの症例のうち1165例(42.5%)が西ナイルウイルス神経侵襲性疾患(髄膜炎、脳炎または急性弛緩性麻痺)(うち85例(7.3%)が死亡)、1434例(52.2%)が西ナイル熱(うち4例(0.3%)が死亡)、米45州の583郡から西ナイルウイルスに感染した死亡したトリが合計5204例報告されていること、ヒト以外の哺乳類において西ナイルウイルス疾患が合計1089例(ウマ1072例(98.4%)、イヌ5例、リス6例、特定されていない動物種6例)が報告されていることなどについて記載。
2006/3/31	58076	ユニチカ株式会社	ウロキナーゼ使用中心静脈用カテーテル ウロキナーゼ使用緊急時ブラッドアクセス留置用カテーテル ウロキナーゼ使用胸部排液用チューブ ウロキナーゼ使用中心静脈用チューブ ウロキナーゼ使用オペチュレータ	ウロキナーゼ	人尿	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2006/3/31	58077	ユニチカ株式会社	ウロキナーゼ使用中 心静脈用カテーテル ウロキナーゼ使用緊 急時ブラッドアクセ ス留置用カテーテル ウロキナーゼ使用胸 部排液用チューブ ウロキナーゼ使用中 心静脈用チューブ ウロキナーゼ使用オ ブチュレータ	ウロキナー ゼ	人尿	中華人民共 和国	有効成分	無	無	無			